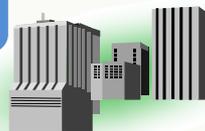


※高度経済成長により、農山漁村の人口が急激に都市に流入

S35~45
高度経済成長期

都市部



・便利な生活
・所得増

人口移動

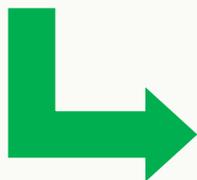
過疎地域



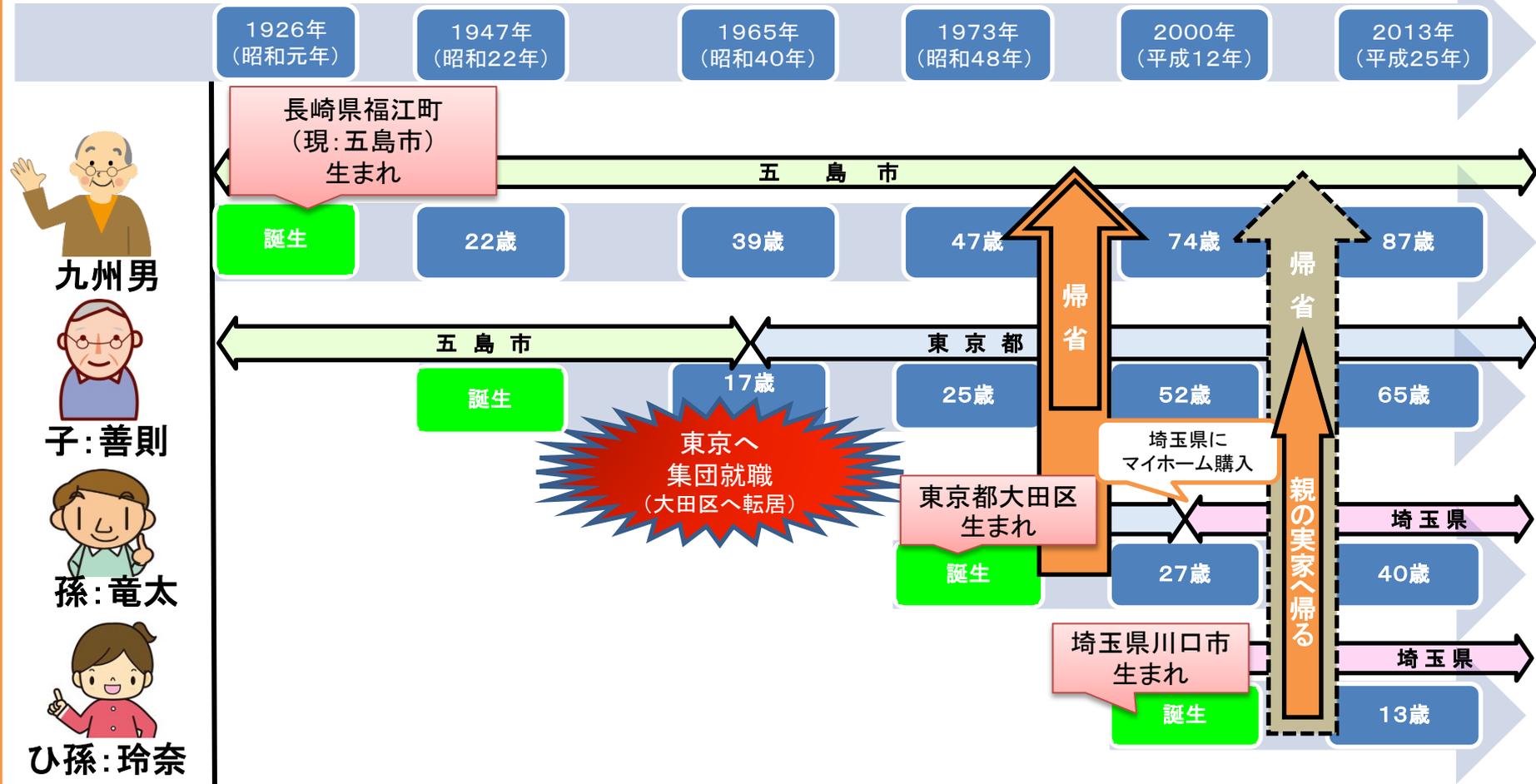
○高度経済成長期の農山漁村地域から都市への集団就職等により、都市部に人口が大量に流入
→都市部には数多くの過疎地域出身の人がおり、過疎対策への理解もあった

○過疎地域出身の人は都市圏(例えば、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県等)に自宅等があることが多く、その子ども、孫は、都市地域で生まれ、又は育つことが一般的となった。
○近年、大学、官公庁においても地方出身者が減っているという声を耳にすることも多い。
→過疎地域のことを実感として知らない世代が増加

*「過疎地域を守る」ということに理解を示さない人がいる一方で、一部には、都会にはないコミュニティや価値を求めて移住、定住する人も増加してきている。
*今後の過疎対策を考えていく上では、都市と過疎地域がお互いによく理解することが重要なのではないか。



松尾家の歴史



年間出生数 約270万人
(参考)2010年:約107万人)

1947~1949年
団塊世代
(第1次ベビーブーム)

1960~1970年
人口急激移転
(地方→都市部)

年間出生数 約200万人

1971~1974年
団塊ジュニア
(第2次ベビーブーム)

2007年~
団塊世代退職

全国的な取組み事例

水源の里シンポジウム

※平成24年度は、11月2日、3日に岐阜県白川町で開催

「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」をキャッチフレーズに結成された全国水源の里連絡協議会を中心に、平成19年度に第1回シンポジウムを京都府綾部市で開催、平成24年度は6回目の開催

○平成24年度テーマ：「日本の宝 水源の里」～日本の元気は水源の里から～

○平成24年度参加者：町外から300人、町内から300人、計600人の上流下流の住民が参加

○平成24年度シンポジウムの主な内容

- 基調講演：「“水源の里”再生の課題」 明治大学農学部教授 小田切 徳美氏
- 実践報告：①「白川町佐見地区の集落営農、6次産業、鳥獣害対策の取り組みについて」
②「飛騨市山之村での地域交流支援活動について」
- パネルディスカッション：「“水源の里”再生の方法－集落再生とマネジメントの方向性を考える」
コーディネーター：法政大学准教授 関司 直也氏
パネリスト：大寺宮農組合長 田口 和義氏、飛騨市地域交流応援隊 都築 朋恵氏、
岐阜県白川町長 今井 良博氏、総務省過疎対策室長 山口 祥義

地域の取組み事例

山梨水源地ブランドシンポジウム

※平成25年2月19日に東京で開催

東京都、神奈川県等の大都市の水源地を支える山梨県早川町、丹波山村、道志村がやまなし水源地ブランド推進協議会を設立し、活動報告のためシンポジウムを開催したもの

○テーマ：産民官の力でつくりあげる「新しい地域活性化のカタチ」

○参加者：行政関係者（山梨県、東京都、総務省、林野庁等）、協議会関係者、企業 等

○シンポジウムの主な内容

- 基調講演：「水源林と共に生きる」 養老 孟司氏
- パネルディスカッション：「過疎化対策」
コーディネーター：総務省過疎対策室 室長 山口 祥義
パネリスト：山梨県早川町長 辻 一幸氏、丹波山村長 岡部 政幸氏、大田 昌博氏
林野庁 関東森林管理局 山梨森林管理事務所 所長 有山 隆史氏、
株式会社イトーキ ECOソリューション企画推進部 Econifa開発推進室 室長 末宗 浩一氏